

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書

団体名	学童ホール支援グループ
-----	-------------

取組の名称	子どもを見守るみんなの居場所作り事業		
実施場所	たまっ子学童ホール		
対象地域	川崎市多摩区		
対象地域の特色・課題	近隣に小学校が多くあり、子育て世代の多い地域である。 新しく保育園もでき、遅い時間まで働く母親の多いことがわかる。 シニア世代も多いが、活躍できる場は少ない。		
取組の趣旨・目的	○共働き家庭やひとり親家庭の親子を支援する。 ○地域の人も気軽に立ち寄る事ができる、みんなの居場所をつくる。 ○多世代が交流し、みんなで子どもを見守る。		
実施内容・実施スケジュール	①放課後児童健全育成事業 学校休業日は朝 7 時から 21 時まで、学校のある日は放課後から 21 時まで、放課後児童支援員が保育する。 ②地域交流のイベント開催 たまっ子どうぶつしょうぎ大会、たまっ子まつり ③こども食堂（毎月第三金曜日）ほかほか御飯の会主催		
参加者の年代	①小学生 ②幼児～大人 ③乳児～大人	定員 （1回あたり）	①25名 ②なし ③40名
実施頻度	①月曜～土曜日 ②しょうぎ大会（年6） たまっ子まつり（年3） ③月1回	活動日数 （年間）	295日

<p>スタッフ体制</p>	<p>①2～5名 ②しょうぎ大会・3～4名 たまっ子まつり・5～10名 ③2～3名+ほかほか御飯の会</p>
<p>連携する団体・ 連携の手法</p>	<p>ほかほか御飯の会 こども食堂は、買い出し・準備・調理・片付けの全てをお任せしている。事前にこちらで予約を受け付け、代表者に予約数を連絡する。当日は15時半から台所と二階を貸し出す。近隣のシニアボランティアも数名が手伝いに来てくれる。</p>
<p>取組実施により 見込まれた効果</p>	<p>①新型コロナウイルスによる学校休業時は、休室することなく早朝からの保育を長期間行った。衛生管理・体調管理には十二分の注意を払った。緊急事態宣言の中でも出勤しなくてはならない保護者からは、とても支持を得た。柔軟に対応できる学童保育の必要性を改めて感じた年であった。発達障害の子も、集団の中で自分の居場所をみつけ、規則正しい生活を送ることでリズムを崩すことなく学校生活に戻ることが出来た。 年間を通して広くボランティアを募っていることで、現役小学校教諭の研修や大学生の教育実習の受け入れができ、学童児たちにも良い経験となった。 ②たまっ子まつりは、緊急事態宣言の発令で残念ながら中止にした回もあったが、近隣からの問い合わせも多かった。当たり前のように開催していたイベントが中止になることで、どれだけみんなが楽しみにしてくれていたかがわかった。緊急事態宣言明けは、時間を短縮し入口で手の消毒と検温に協力してもらい開催した。どうぶつしょうぎ大会は中止にすることなく、衛生管理を徹底して開催した。 ③こども食堂は、新型コロナウイルス対策として持ち帰りも可能にした。緊急事態宣言の発令中以外は、開催した。開催するかどうかの近隣からの問い合わせも多かった。中止にしたことで、より一層、シニアの大切な活躍の場であったことを感じている。 コロナ禍でもどのようにしたら開催できるのか、みんなで知恵を絞って協力し合う事ができた。</p>